

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	淀川区
学 校 名	大阪市立三津屋小学校
学校長名	川口 淳

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 97名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科の平均正答率は全国の平均正答率とひかくすると6.6ポイント、大阪市とは、5ポイント下回る結果となった。内容を見てみると、特に「読むこと」の領域で全国平均との差が見られた。
算数科の平均正答率は全国と比較すると4.4ポイント下回り、大阪市とは、3ポイント下回る結果となった。内容を見てみると、特に「データの活用」の領域で全国との差が見られたが、昨年度より全領域で全国平均正答率との差を縮めることができた。
国語科、算数科ともに無回答率も全国平均より高い結果となり各教科に対して自信のなさがうかがえる。また、本校全体の傾向として全国的に正答率が低くなり問題（つまづきが予想される問題）について問候の正答率がかなり低くなることがわかった。

分析から見えてきた成果・課題

〔国語〕について「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」、「我が国の言語文化に関する項目」「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれの項目で、大阪市平均を0.5～11.7ポイント、全国平均を1.4～12.3ポイント下回る結果となった。課題としては、「読むこと」領域において全国平均との差が大きく本校が取り組んでいかなければならない課題であることがわかった。しかし、質問紙において、「国語の勉強は好きか」「大切だと思うか」「よくわかるか」の項目において肯定的な回答が、全国平均・大阪市平均を大きく上回り意欲的に学習に取り組んでいることがわかった。
〔算数〕について「数と計算」、「図形」、「データの活用」それぞれの項目で、大阪市平均を3.5～5.6ポイント、全国平均を5.2～7.4ポイント下回る結果となった。しかし、昨年度に比べ無回答率以外は、全国平均との差は縮めることができた。また、「変化と関係」の項目については今年度全国平均を上回ることができた。課題としては、「データの活用」領域において全国平均との差が大きく本校が取り組んでいかなければならない課題であることがわかった。また、質問紙からも「算数は好きですか」「よくわかるか」の項目において肯定的な回答が全国平均・大阪市平均を下回り算数の学習に対する苦手意識のあらわれと推測できる。

質問調査より

児童質問紙の結果から「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に肯定的な回答91.6%（最も肯定的な回答66.3%）、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の肯定的な回答は93.7%（最も肯定的な回答52.6%）であり学校が経年的に取り組んできた異学年交流や自己肯定感の向上についての取り組みについて一定の成果が出ていると考えている。
また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定的回答は、87.3%となり、本年度の研究主題を対話的な学びを主眼においた取り組みの成果が出ていると考えている。
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の最も肯定的な回答は85.3%（肯定的な回答100%）であった。いじめについての指導は引き続き継続して行っていく。

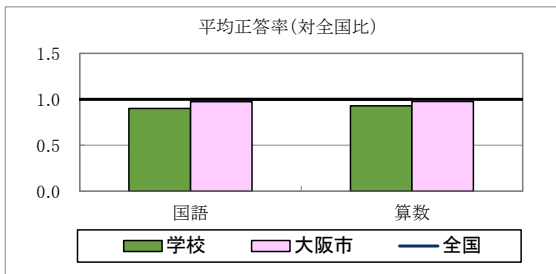
今後の取組(アクションプラン)

学力の定着として、個々のつまづきを調べ、それに応じた課題を与え反復学習を行う。その手立てとして日々の授業の質の向上はもちろんであるが、デジタルドリル「nabima」「スタディサプリ」の活用、学習教材データ等活用し朝の学習や自主学習に取り入れ基礎基本の定着に努める。
また、学校が休みの時に家庭での学習する時間が0の児童が全国平均の2倍以上（33.7%）であった。今後は児童が興味・関心をもって意欲的に自主学習に取り組もうとする学習内容を紹介し自ら学習に取り組むことができるよう取り組み個別最適な学びを進める。昨年に引き続き家庭との連携を図りながら進めていく。

【 全体の概要 】

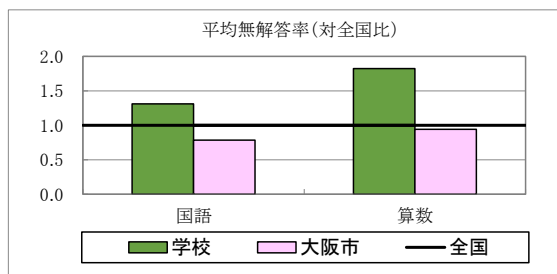
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	61	59
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	5.5	6.2
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



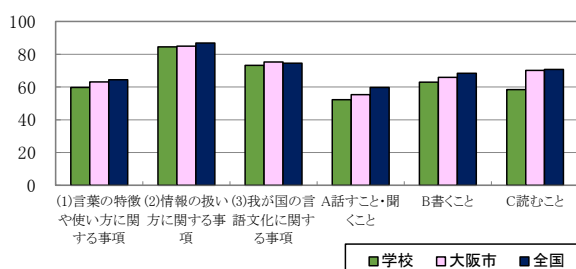
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	59.8	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	84.5	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	73.2	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	52.2	55.3	59.8
B 書くこと	2	62.9	65.9	68.4
C 読むこと	3	58.4	70.1	70.7

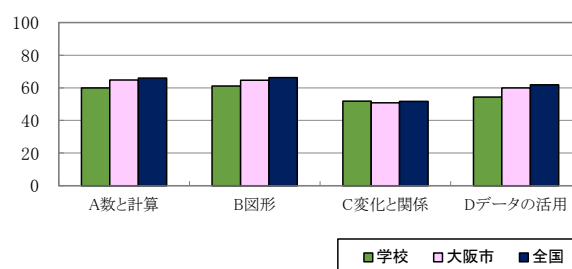
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	60.0	64.8	66.0
B 図形	4	61.1	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	51.9	50.8	51.7
D データの活用	4	54.4	60.0	61.8

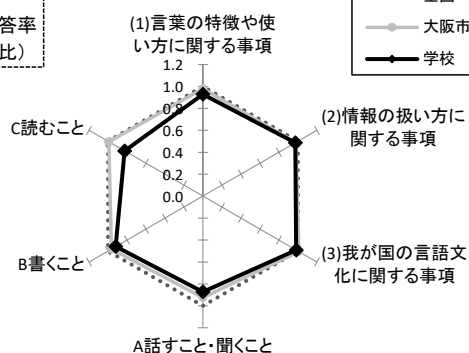
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



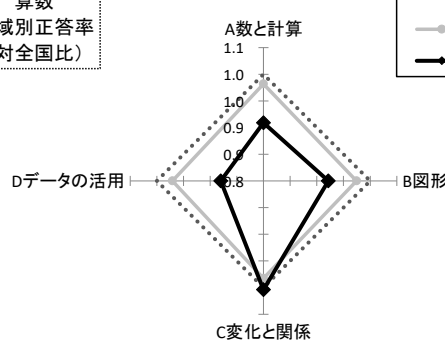
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



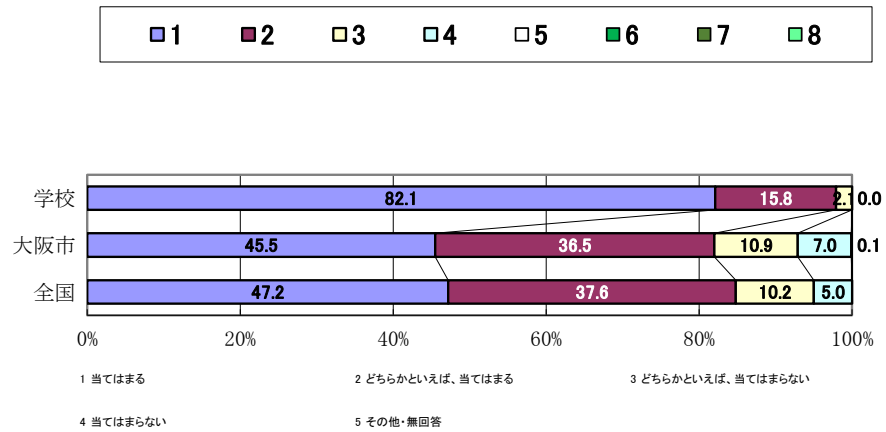
児童質問より

質問番号

質問事項

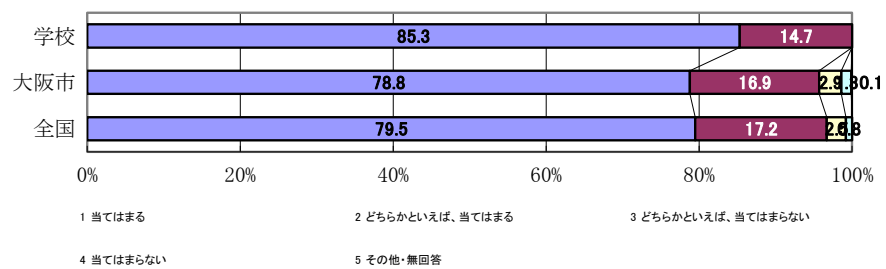
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



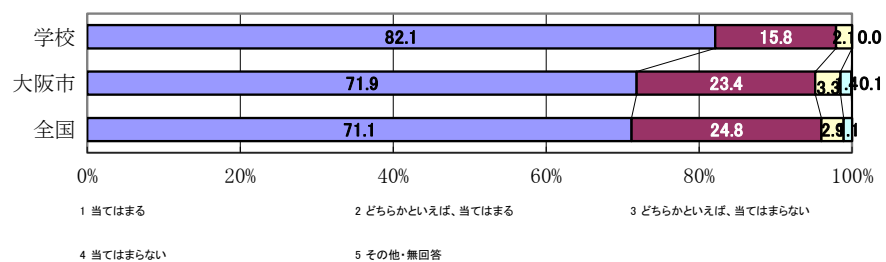
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



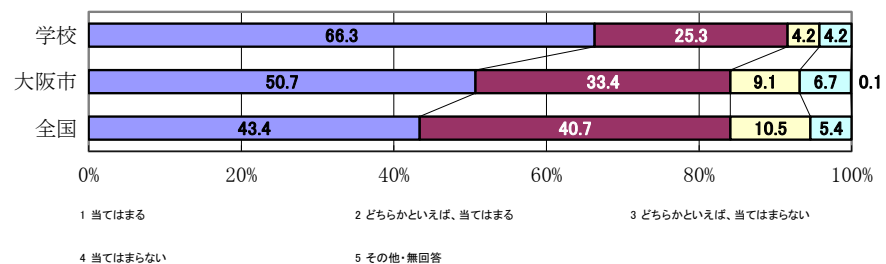
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



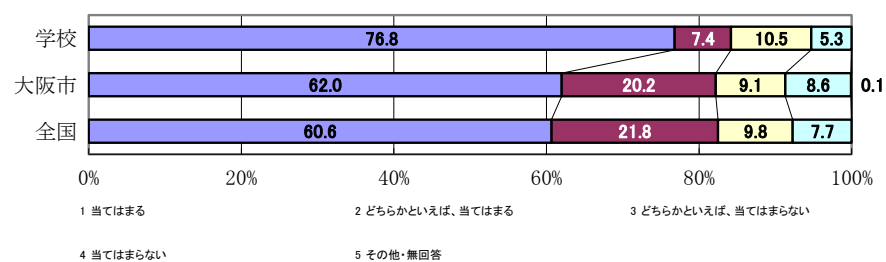
9

自分には、よいところがあると思いますか



11

将来の夢や目標を持っていますか



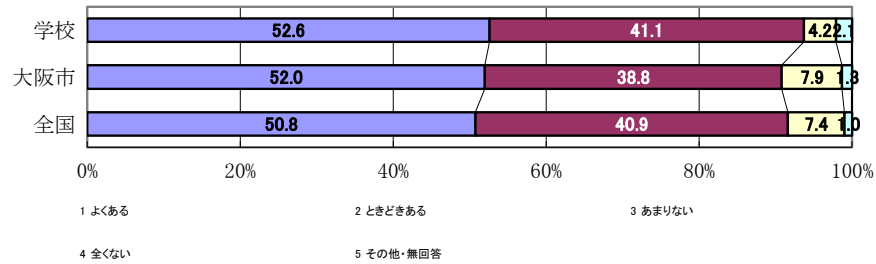
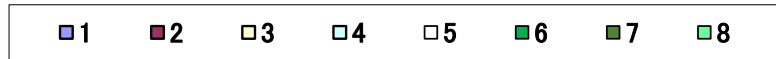
児童質問より

質問番号

質問事項

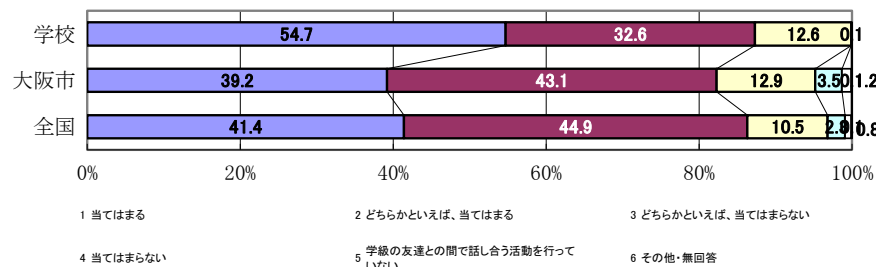
19

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



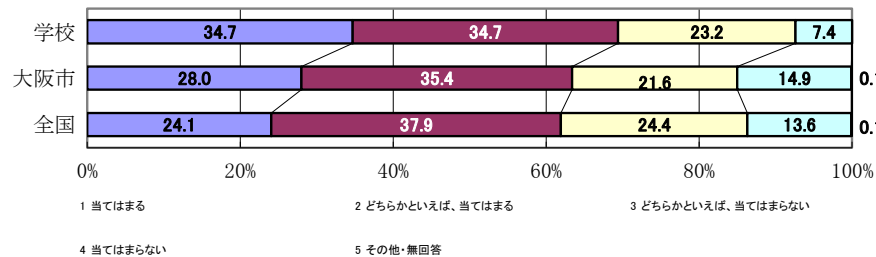
33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



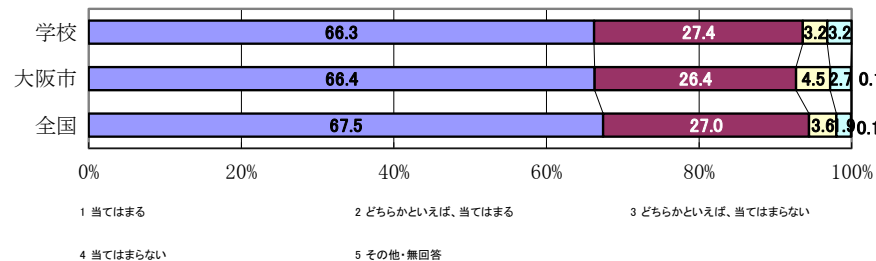
42

国語の勉強は好きですか



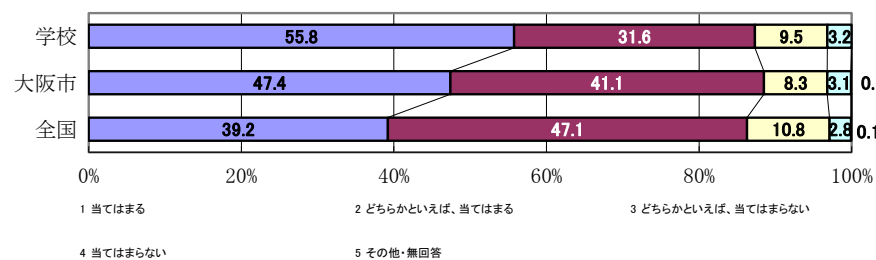
43

国語の勉強は大切だと思いますか



44

国語の授業の内容はよくわかりますか



児童質問より

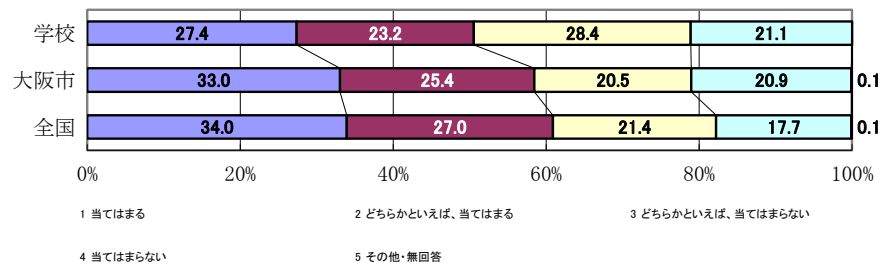
質問番号

質問事項

50

算数の勉強は好きですか

1 2 3 4 5 6 7 8



51

算数の勉強は大切だと思いますか

